様式２－２

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
実施方法等

１．実践校について

実践校名	（ひょうごけんりつこうでらこうとうがっこう） 兵庫県立香寺高等学校	
学科名	生徒数	学級数
全日制総合学科	５９６	１５

２．実践研究の対象

１年次「産業社会と人間」　　５学級２０１名
２年次「総合的な学習の時間」　５学級１９９名
３年次「総合的な学習の時間」　５学級１９６名

３．実践研究の実施経過

１年次「産業社会と人間」

５月　社会人による講演　講師　株式会社アンド　代表取締役　小野義直氏

６月　「職業人座談会」開催

生徒は、１８の職業分野に分かれて、働くことの意義や高校時代に取り組んでおくことなどについての講話やディスカッションをおこなった。

招聘した１８の職業分野

システムエンジニア	営業・サービス業	観光業
ブライダルプランナー	公務員	美容師
エステティシャン	調理師・栄養士	ファッションデザイナー
保育士	介護福祉士・社会福祉士	スポーツトレーナー
音楽関係	グラフィックデザイナー	動物関係
看護師	理学療法士	作業療法士

９月　夏季休業中に生徒は、２人の職業人に「職業人インタビュー」を実施し、そこで知り得た情報などの報告をおこなった。

１０月　自ら目指す職業が、学業とどのように関係しているかを知るために、キャンパス見学をおこなった。

１１月　社会人による講演を２回おこなった。
テーマ「多様な生き方」講師　海部氏
テーマ「人生について」講師　長副氏
「ビブリオバトル」を通して、文章読解力と表現力を身につける。

１２月　調べ学習の手法として※1「調べイモ」を活用し、情報収集力と表現力を身につける。

注※1「調べイモ」･･･設定したテーマについて思いつくキーワードをカードに書き上げ、調べるキーワードを KJ 法で分類整理し、キーワードについて調べていく方法

２年次「総合的な学習の時間」

この時間は、「課題研究」として活動している。

４月～　テーマ設定　課題研究として、取り組みたい事象についてのテーマを設定する。

５月～　調査活動　テーマに関係する事柄についての基本知識などを調べる。

７月～　体験活動　体験・実験等

大学模擬授業　大学の教授にお越しいただいて、大学の授業形式で講話を聞く。場合によっては、課題研究の内容で知りたいことについて質問する。

９月～　検証活動　夏季休業中等を利用して、知り得た内容を整理する。

１１月～　中間整理　ここまで行ってきた活動を整理し、中間発表を行う。

２月～　調査活動　新たにわかってきた課題に対して、解決方法等を考える。

３年次「総合的な学習の時間」

この時間は、「課題研究」として活動している。

４月～　テーマ設定　課題研究として、取り組みたい事象についてのテーマを設定する。

５月～　調査活動　自ら設定した課題について１年次・２年次で学んだ手法を用いて、テーマに関係する事柄についての基本知識などを調べる。

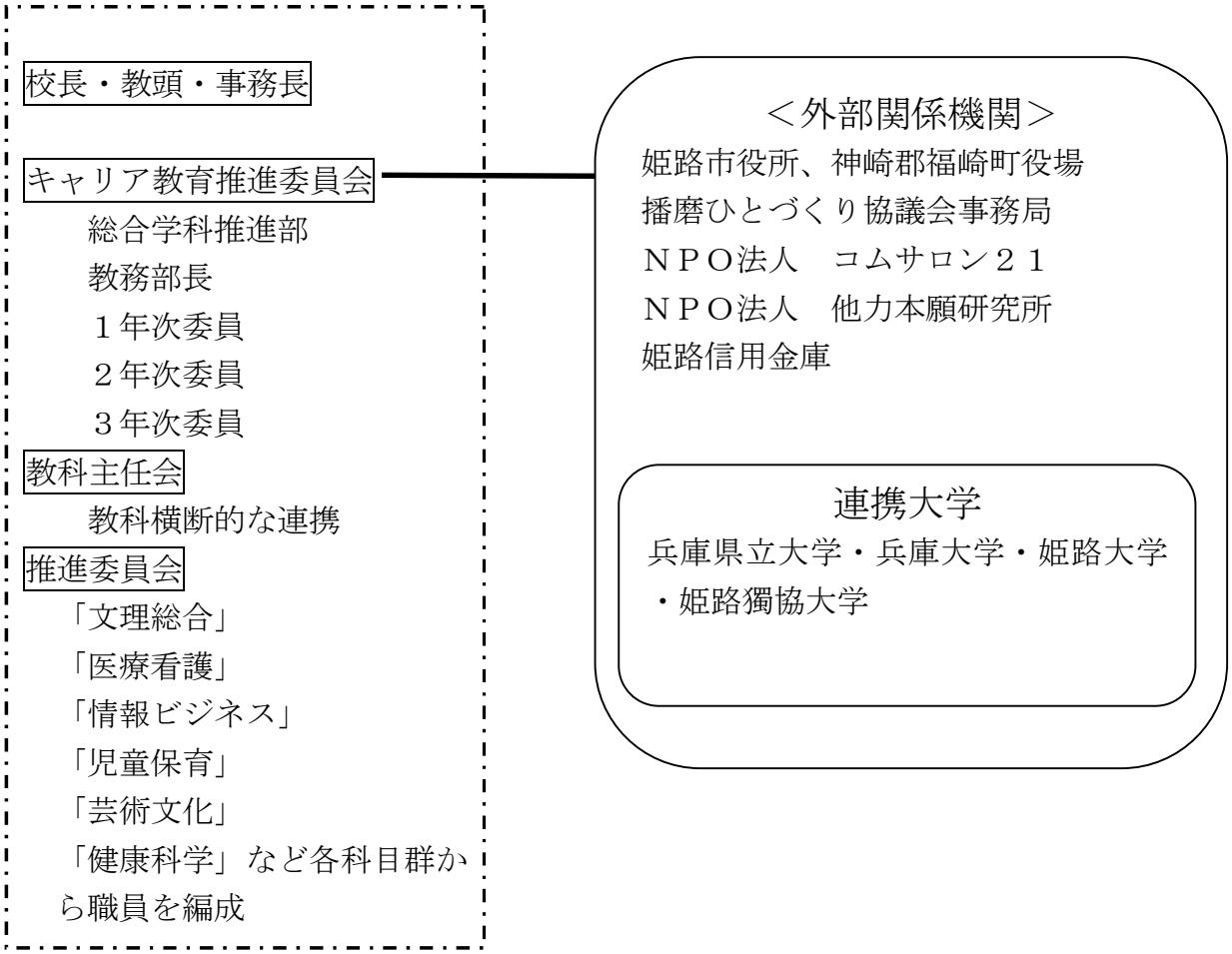
７月～　体験活動　体験・実験等

９月～　検証活動　夏季休業中等を利用して、知り得た内容を整理する。

１１月～　内容整理　ここまで行ってきた活動を整理し、まとめる。

１２月～　報告発表　活動内容について発表会を通して、発表する。

４．実践研究の実施体制



５．教育委員会等として取り組んだ内容

県教育委員会では、本事業が円滑に実施できるように、高校教育課に担当指導主事を置き、日常的に学校の相談に応じられる体制をとった。

様式２－３

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：兵庫県立香寺学校（総合学科）

概要

○　１年次「産業社会と人間」、２年次「総合的な学習の時間」、３年次「総合的な学習の時間」の活動を通じて「課題解決力」「進路設計力」を育む学習プログラムを開発する。

学習プログラムの目標

○　本校では、３年間の学びを通して、以下に述べる力を育てていくことを目標としている。

「課題解決力」：自ら課題を発見し、その解決方法を探る力
今年度は、思考力・判断力・表現力を育むために必要である「計画する力」・「実行する力」を育成する。

「進路設計力」：自己の進路実現に必要なことを考え、実行する力

○　「産業社会と人間」では、「自己を知る」「学びを知る」「社会を知る」の３つをコンセプトに他者の意見を聞く力、社会に対する関心を高め、調べる力、考えをまとめる力などを養い、「課題解決力」の基礎的な力を育成することを目指している。特に、総合学科では２年次からの科目選択を行うが、そのために自らの生き方や自らの興味関心などに基づいて、何を学ぶか、何を学ぶ必要があるのかを考える。

「職業人座談会」「職業人インタビュー」などを通して、地域の社会人から仕事への思いや仕事のやりがいなどを聞く中で、社会との関わり方を学び、興味関心のある生き方を、人生の諸先輩たちから学ぶ。そして実際に大学への訪問・見学を行い、社会と学問との関連性を知った上でこれからの生き方についての基礎を学び、今後の生き方設計「キャリアプラン」を考え、「進路設計力」の育成を目指す。

○　２年次「総合的な学習の時間」では、３つのコンセプトを踏まえた上で、１年次の学習に加えて、さらに社会に対する関心を高め、「調べる力」、「考えをまとめる力」などの手法を育てるための発展的な学習を行う。また、２年次では、６月に「体験アワー」と称する時間を設定し、６つの選択科目群（文理総合・医療看護・情報ビジネス・児童保育・健康科学・芸術文化）に関連した職業に、地元で従事されている方々にお越しいただき、地域と仕事との関わりや地域貢献、仕事のやりがいなどについての講話を聞く。７月の「大学模擬授業」では、大学の授業を実際に体験することで、大学の学部・学科選択について自らの志望を検証していく。さらに今年度、２年次から「課題研究」を実施し、来年度を見越した「進路設計力」の育成を行う。

○　３年次「課題研究」において、「社会の課題」および「自己の進路実現につながりのある課題」を課題研究テーマに、自身のテーマを深め、根拠を求めていく意欲と継続的な「課題解決力」を育てていく。また、地域の課題を解決する方法を提案するこ

とにより、社会参画への意識と地域貢献の意識を高め、育てていく。

一年間を通じて、学校外部の人材や地域社会の関係者などと連携をした上で、それぞれの課題を設定し、研究を展開する。探究活動をさらに深めるために、その分野について専門的な知識・経験を有する講師に指導を受け、自分たちで課題解決にむけたデータ収集が行えるよう、講師との連携を徹底する。そして、研究成果の発表会を設けて、プレゼンテーションを行うと同時に、共有化を進める。また「課題研究」を通して、姫路市が抱える課題に対して、生徒たちに何ができるかを考えさせ、考えた内容が実際に有効なものであるかを近隣大学の講師や地域企業の代表取締役等からアドバイスをいただきながら、課題解決の提案を行う。特に、姫路の「播磨ひとづくり地域戦略会議」が実施している「播磨まちづくりアイデアコンテスト」に参加することを目標とすると同時に、これに参画している姫路市教育委員会や姫路経営者協会と連携して課題研究を進めていく。

学習プログラムの主な内容

学習プログラムは、３学年とも全て通年で行っている。

１　外部講師による講義

（１）３年次は、兵庫県立大学地域創造機構から定期的に大学教授に来ていただき、課題研究の進め方や研究の深め方についての助言をうける。

①課題研究におけるテーマ設定について

・自分たちが楽しめるものでないと、魅力がないものになる。

②課題解決案を考えて、検証していくことが非常に重要である。

③１年間の研究発表で終わってしまうのでなく、後輩たちが継続して研究していくシステム作り。

２年次は、ＮＰＯ法人他力本願研究所代表理事の前川氏に定期的に来ていただき、課題研究の進め方や研究の深め方についての助言をうける。

①課題研究におけるテーマ設定について

・自分たちが楽しめるものでないと、魅力がないものになる。

②課題解決案を考えて、検証していくことが非常に重要である。

③１年間の研究発表で終わってしまうのでなく、後輩たちが継続して研究していくシステム作り。

両年次とも内容は、同じであるが３年次が大学教授であり、２年次は社会人と違いをもたせる。

（２）福崎町地域振興課に、福崎町の活性化についての活動を協力依頼する。
福崎町のキャラクタの着ぐるみを貸してただき、プロモーションビデオづくりに全面的に協力してもらう。

（３）姫路市立飾磨高等学校と連携して、姫路市子育て支援センターなどの協力を得、個食が多い児童に対して「こども食堂」を開設した。

（４）「職業人座談会」　実際に働いている方から話しを聞く。

（５）姫路の特産物である「もち麦」を使った商品を開発し、横浜市立横浜総合高等学校と合同して販売し、アンケート調査により商品開発に活かす。

２　フィールドワーク

科目群ごとの職場見学や施設見学および体験活動

課題研究において、グループごとに扱う課題（研究テーマ）を設定し，フィールドワークを行う。

３　グループディスカッション

課題研究を進めるにあたり、１５の講座に分け、各講座から１グループ２～４名のチームで調査・研究活動を行う。その際、講座に関する課題についてディスカッションを行い、その後、チーム内でディスカッションをし、研究活動を進めていく。

４　発表活動

実施グループごとに提言をまとめ、１年間の取組を総合学科発表会で、発表する。その際、兵庫県立大学地域創造機構などとのフィールドワークに関わった関係者からの指導助言を以後の探究活動につなげる。

「播磨ひとづくり地域戦略会議」が実施している「播磨まちづくりアイデアコンテスト」に参加する。

学習プログラムの成果の概要

○　検証方法として、１年次は、総合学科発表会での発表および活動内容を表した展示物、２年次は、課題研究中間発表会、３年次は、課題研究発表会においての発表内容とポスターの内容によって、どれだけ能力が向上したかを客観的に評価する。それに加え、生徒自身による自己評価も参考にしている。以下は、各年次の自己評価より抜粋したものである。

○　１年次「産業社会と人間」で、受講した２０１名にアンケート調査を行った結果、「読む・書く・話す・聞くといった４技能が向上した」と実感した生徒が、７割を超え、「将来の進路選択の参考および職業に対する意識が向上した」と感じた生徒が、９割を超えた。

○　２年次は、これまで３年次で行ってきた２単位の「課題研究」を取り入れ、それに加えて、調べる力や考える力、伝える力を学んだ。アンケート調査の結果によると、９割の生徒が「思考力と判断力がついた」と実感していることがわかった。さらに、昨年から取り入れている伝える力の学習によって、「表現力が身についた」と実感している。

○　３年次では、「進路に関連した学びができた」と感じた生徒が８割を超え、「学びが深まる工夫ができた」と感じた生徒が８割近くになった。このことから「総合的な学習の時間」を通して、「課題解決力と進路設計力が身についた」と多くの生徒が感じたと考えられる。また、「専門的なことが学べた」や「様々な角度から問題を深く考えられるようになった」と感じた生徒が８割に達した。

様式２－２

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
実施方法等

１．実践校について

実践校名	ひょうごけんりつあまがさきこうとうがっこう 兵庫県立尼崎高等学校	
学科名	生徒数	学級数
普通科	９４１名	２３

２．実践研究の対象

普通科、２年、１７名、学校設定科目「尼崎学」授業選択者
　　３年、３０９名、現代社会（尼崎学での活動の一般化）

３．実践研究の実施経過

※年間を通じて、各種ボランティアに参加した。

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	単元	単 元 名												
授業	①	社会の変化と課題解決学習の意義	■	■	■									
	②	地域課題の実態とその解決		■	■			■		■			■	
	③	課題解決の方法	■	■	■			■	■	■		■		
	④	プレゼンテーションの技術と方法								■		■	■	
	⑤	地域課題と社会の在り方										■		
課外活動		プロジェクト名												
	A	高校内居場所カフェ					■				■	■	■	■
	B	ワザカタログ－高校生と中小企業を繋げる－			■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	C	尼崎おもしろい人取材リレー				■	■	■	■	■	■	■	■	
	D	高校生と留学生の交流				■	■	■	■	■	■			
	E	留学生を尼崎にコーディネート				■	■	■	■	■	■			
	全員	イベント参加、発表活動等		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

「尼崎学」の授業内容は、年間として上記のような単元を設定して実施した。

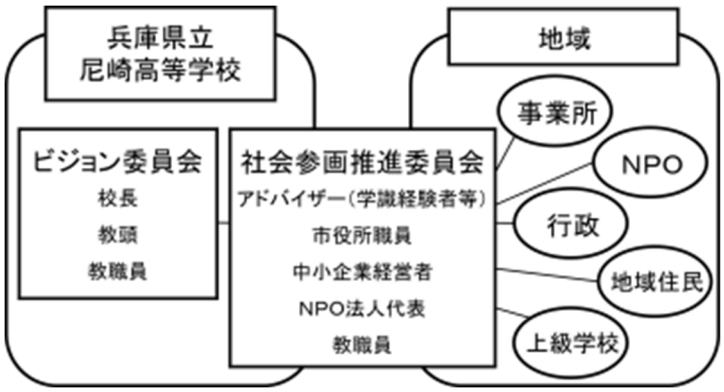
課外活動として実施した各プロジェクトは、7月から着手し、12月までの実施を原則とした。自分たちが実施した（あるいは実施予定）のプロジェクトについて、12月のリサーチフェスタ（於：甲南大学）や２月の学習成果発表会で成果や途中経過について発表し、多くの有意義な意見をもらうことができた。「現代社会」においては、実社会との接点を重視した教材開発と外部講師による授業を２つ実施した。

４．実践研究の実施体制

学識経験者等をアドバイザーとし、市役所職員、市内の中小企業経営者・ＮＰＯ法人

代表を委員とした社会参画推進委員会を設置した。

昨年度は２回の委員会を開催したが、今年度はその都度ごとに学校と地域の連携方法や評価の在り方等について討議し、３月上旬には全体の振り返りを個別に実施した。



兵庫県立尼崎高等学校　社会参画推進委員会

		名　前	所　　属
1	アドバイザー	浦崎　太郎	大正大学地域構想研究所　教授
2	アドバイザー	山中　昌幸	大正大学地域構想研究所　客員研究員 ＮＰＯ法人ＪＡＥ　会長ファウンダー
3	アドバイザー	川中　大輔	龍谷大学社会学部　専任講師 シチズンシップ共育企画　代表
4	アドバイザー	毛受　芳高	一般社団法人アスバシ　代表理事
5	委　員	清田　仁之	ＮＰＯ法人月と風と　代表理事
6	委　員	高橋　健二	尼崎市　健康福祉局　福祉部　福祉課長
7	委　員	立石　孝裕	尼崎市　武庫地域振興センター　市長
8	委　員	畠中　裕介	株式会社エアグラウンド　代表取締役 尼崎経済新聞　編集長
9	委　員	濱田　格子	ＮＰＯ法人　子どものみらい尼崎　理事長 姫路大学　講師
10	委　員	松本　久晃	株式会社栄水化学　代表取締役社長 一般社団法人あま・ひと・みがき・プラットフォーム　代表理事
11	委　員	若狭　健作	株式会社地域環境計画研究所　代表取締役
12	委　員	児玉　敏男	兵庫県立尼崎高等学校　校長
13	委　員	長谷部　元祥	兵庫県立尼崎高等学校　教頭
14	委　員	田畑　北斗	兵庫県立尼崎高等学校　教諭（地歴・公民科） 「尼崎学」授業主担当者　進路指導部
15	委　員	西海　耕平	兵庫県立尼崎高等学校　教諭（地歴・公民科） 第３学年担任（教育と絆コース）
18	委　員	平家　靖久	兵庫県立尼崎高等学校　教諭（地歴・公民科）　第３学年担任

５．教育委員会等として取り組んだ内容

県教育委員会では、本事業が円滑に実施できるように、県高校教育課に担当指導主事を置き、日常的に学校の相談に応じられる体制をとった。

様式２－３

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：兵庫県立尼崎高等学校（普通科）

概要

○　少子高齢化の進む職住近接の中核市において、地域と協働した主体的な活動を通じて、当事者意識を持って持続可能な社会の形成に参画する行動力を育む学習プログラムを開発する。

学習プログラムの目標

○　課題解決型学習を通じて、課題の発見から解決に必要な知識・技能を身につける。
○　実社会と自分との関わりから課題を設定し、その解決策をグループで考え、決定し、実行する行動力を身につける。
○　自分の考えや実行したことを、適切に他者に伝えることができる。
○　地域との協働を通して、自分の生き方あり方について考え、将来に前向きな展望を持つ。
○　持続可能な社会の実現に向けて、社会の一員である自覚を持つ。

学習プログラムの主な内容

①　外部講師による講義・グループワーク
　市役所職員、中小企業経営者、ＮＰＯ法人代表・職員等から地域課題の現状や政治参加について講義を受ける。

②　フィールドワーク
　グループごとに扱う課題を設定し、インタビューやボランティアを通じたフィールドワークを行う。

③　課題解決に向けたグループワーク
　グループで課題解決に向けた具体的かつ実際的な企画の立案を行う。

④　発表活動
　高校生のまちづくりワークショップ（尼崎市）で企画内容を発表し、地域の有識者から指導助言をもらう。リサーチフェスタで、実施した企画、実施予定の企画を発表し、大学教授、高校教師、大学生、高校生などから意見をもらう。学習成果発表会で学校全体に活動内容を報告する。その他、全国高校生マイプロジェクトアワード等へエントリーする。

⑤　課題解決に向けた活動
　生徒自ら考えた課題解決に向けた活動を課外活動として行う。

⑥　持続可能な社会の形成に関する学習
　自ら考えた課題解決に向けた活動が市の総合計画とどのような関係にあるか、世界の諸問題とどのように関係があるかをＳＤＧｓとの関連を通じて学習する。

学習プログラムの成果の概要

○　９割程度の生徒が、課題解決能力が社会で求められており、課題解決学習の必要性があることを理解した。またすべての生徒が、課題解決に向けた行動力がついたと実感している。

○　９割程度の生徒が、尼崎市の課題についての理解が深まり、地域の課題と政治・行政の関わりについて理解できた。また、学習を通して、新しいことを知ること、できるようになることが楽しいと思えるようになった。

○　９割以上の生徒が、課題の発見から解決に至る流れについて理解ができ、他者に考えや実行したことを伝える方法も理解できるようになった。

○　全ての生徒が、他者と協働することに前向きになった。また他者と協働する中で、自分の生き方を考えるようになった生徒も９割程度いた。

○　全ての生徒が、課外解決型学習プログラムについて意義があると思っている。